

1 日時

令和5年10月20日（金） 午後1時～5時

2 開催場所

柏市役所本庁舎5階 第4委員会室

3 出席者

(1) 選定委員会委員

加藤副市長（委員長）、小島企画部長（副委員長）、中山財政部長、永塚市民生活部長、小出スポーツ課長

【専門委員】藤原昌樹氏（川村学園女子大学生生活創造学部生活文化学科 学科長）、
吉川良子氏（柏市スポーツ推進委員協議会 会長）

(2) スポーツ課（施設所管部署及び事務局）

関本統括リーダー、伊藤担当リーダー、久保主任

4 配付資料

追加の配布資料は無し

5 議事概要

（※以下、加藤副市長が委員長として議事を進行）

(1) はじめに

委員長から開会の挨拶

(2) 面接審査について

【主な内容】

- ・ 書類審査において面接対象と決定した応募団体3団体（以下「株式会社協栄千葉支店」、「団体A」、「団体B」という。）について、面接審査を行う。
- ・ 面接時間は、各団体50分（入退室時間を除く）とする。うち、20分をプレゼンテーション、残りを質疑応答の時間とする。
- ・ 面接審査の評価結果に基づき、指定管理者候補者と第二優先交渉権者を決定する。

【(株式会社協栄千葉支店) に対する主な質疑応答】

中山委員 長年管理に携わってきたとのことで、利用状況に関する課題についての見解や反省点、それに対する取り組み、実績について教えてほしい。

応募団体 新型コロナウイルスによって利用者が大幅に減ってしまったため、これを回復させることが課題である。

また、施設の老朽化が進んでいることから、施設を止めないよう、予防保全を行う必要があるということも課題である。

反省点としては、コロナを理由にイベント等が計画通りできなかった点であり、オンラインイベントの開催等もできたのではないかと、というのが反省点である。今後は歩みを止めることなく市民の方にスポーツの場を提供していきたい。

今後の取り組みについては、利用者数増に向け、柏市の施設を知らない方、転入してくる方の掘り起こしをするため、施設の利用体験会等により少しでも関心を持ってもらい、そこから継続利用に結び付けたい。

実績としては、体育館の抽選予約申込期間を拡大した点や、冬季は日没の影響から、庭球場の1時間限定での利用を可能とする策を導入した。他にも柏の葉運動場多目的広場の開場日を増やす等の対応を行う等の、地味だが利用者の声に寄り添った対応をしてきた。

藤原委員 現在はアシックススポーツファシリティーズとコンソーシアムを組んでおり、今回は単体での提案のため自主事業について自分たちで行うとのことだが、利用率をどの程度まで上げたい、等の数値目標があればお示しいただきたい。

応募団体 現在の協栄・アシックスグループとして行っている教室数が500程度であり、700程度まで増やしたい。空いているスポーツ施設には限りがあるため、空いている会議室等も利活用したいと考えている。

小島副委員長 利用者の増を図るためにはスポーツ施設の取り組みを周知する必要があると思うが、その内容について、改善をしようという考えや、力を入れるところはあるか。

応募団体 現在はフリーペーパーやホームページ、X（旧twitter）やFacebookを利用しているが、今後はInstagramやTiktok等の動画コンテンツも追加する。また、フィルムコミッションも強化する。他にも、デジタルサイネージを活用することを考えており、これはスポーツに関する広報のみならず、柏市各課と連携し、各種啓発に関する共同事業化もできると考えている。

小島副委員長 まずは知ってもらうことが重要だが、次はリピーターとなってもらうことが重要である。どういった手法を想定しているか。

応募団体 子供や障がい者に加え、子育て世代がターゲット。特にスポーツをする機会が少なく体力が落ちてきている方が多い40歳代女性をメインターゲットとしており、家族でスポーツ施設に来れるようなイベントを企画している。また、近隣センター等にインストラクターを派遣し、ナイトピラティス、ナイトヨガの開催を予定している。

小島副委員長 子育て世代は日中等、来場できるのか。

応募団体 母親が自由になりやすい時間である、夜間にナイトヨガ、ナイトピラティス教室を開催し、また、徒歩で行ける距離の近隣センターで行うことで参

加のきっかけづくりとし、それをきっかけに体育館での大きいイベントや教室に誘導できる流れを作りたい。

藤原委員 計画書を見るに、40歳代の女性をターゲットにしたものが確かに多く、子供をターゲットにしたものも多いが、高齢者の体力向上等に関する事業は少なく見えるがどうか。

応募団体 現在行っている自主事業は平日の昼間に行っているものが多く、これは60～70歳が平均となっている。これらの教室の再編成をし、人気の教室やインストラクター、時間帯等勘案して高齢者の方を取り込めるようにしたい。

藤原委員 参加者の男女比は。

応募団体 教室参加者の8割程度が女性であり、男性はトレーニング室を利用しているイメージがある。

永塚委員 現在2社で管理をしているが、次期からは単独となることになる。単体で運営することの強みは。

応募団体 意思の疎通について完全に1本化されるので、それについては強みである。イベントの開催等も直接計画を立てられたりだとか、緊急時の連絡体制等も一本化され、迅速に対応できる。

永塚委員 体育館のオンライン予約システムの導入とあるが、この原資及び導入時期は。

応募団体 自主事業の申し込みの際に使用するシステムについては、自社の方で対応する予定であり、既に見積もりも取得している。また導入時期は4月を予定している。

小出委員 次期は単体での提案となり、アシックススポーツファシリティーズが担当していた部分も協栄が行うこととなる。既存の従業員の方々への負担が増えるのでは無いか、支援体制等どのように対応するか。

応募団体 現状においても夏場はプール運営に人を取られているため、短期で契約社員を補充することを予定している。また、アシックスが行っていた事業については専門業者に委託する。

小出委員 各自主事業について、実施時期はどのような計画となっているか。

応募団体 現状も指定管理を行っていることから、協議については今年から行い、実現可能なものからすぐにとりかかっていく。

永塚委員 サーフィンやスケートボードについては、貴団体において開催実績があるのか、また、サーフィンについてはどの時期に行うのか。

応募団体 協力先の連盟での実績が多数ある。また、サーフィンについては、市民プ

ール開場前及び開場した後の時期を想定している。

中山委員 修繕個所の提案について、サイクルポートは自社対応するとあるが、他は全てお勧めする、となっている。修繕における市と業者との線引きはどう考えているか。

応募団体 仕様書にあるように、30万円以下か否かで判断する。また、予防保全の観点から、事前に市にアナウンスさせてもらう。

【(団体A) に対する主な質疑応答】

中山委員 今のスポーツ施設に関する課題認識について特に記載が無かったが、課題認識はどのように考えているか。

応募団体 今回の提案をするうえで、施設を見て利用者調査をしている。その中で課題として、床のマットが汚く不衛生なので変えてほしい、という意見があった。他にもあるが、特にこれを解決するために、先行投資を行い解決したい。

中山委員 ハード面での課題は理解したが、利用状況等への分析や戦略であったり、利用の少ない、働き盛りの年代の人に対するPR等についてはどうか。

応募団体 施設に来るきっかけを作りたいので、SNSを活用して広報を行う。また、様々なニーズに対応するため、様々な自主事業を提供する。

中山委員 21施設の連携ということが記載されているが、具体的なイメージは。

応募団体 すべての施設を網羅して使うような、スタンプラリーやイベント等を企画したいと考えている。

また、地域マネジメント（プラットフォーム）を作ることにより、施設間のやり取りが活性化された事例もあるので、これを導入する。

藤原委員 地域マネジメントについて、地域貢献をするということで設置し、自治会やスポーツ協会等に加わってもらうとのことだが、加わっていくような根拠はあるのか、また、どのような現象を地域活性化ととらえているか。

応募団体 参加を強制をするものではなく、一緒にスポーツを盛り上げていくために参加のお願いをしていく。また、地域活性化については、利用者や民間企業を集めて情報共有を行うことで、消費を増やしていくような、経済的なものを主軸としつつ、文化や芸術的な面を醸成する側面もある。

小島副委員長 先行投資について、沼南体育館に比重が高いように感じるが、中央体育館の方では特に検討はされなかったのか。

応募団体 もちろん中央体育館でも満足度向上に向けて取り組む。

小島副委員長 果実還元の提案内容について、相当の利益が無いと還元は難しいので

はないかと考えている。還元の中で設備投資や改修等行う事業者もいると思うが、貴団体においては、事業を進める中で投資が必要と感じた際にどのように対応するのか。

応募団体 収支が良くなくとも、投資や修繕により利用収入の向上あるいは安全度の向上が予想される場合は、対応を行い、更に人が来てもらえるようにしたい。

藤原委員 先行投資について、指定管理料と別に先行投資を行うということで良いか。

応募団体 自主事業の会計の中において計上し、計上の方法については、5年間で案分していく。

吉川委員 自主事業はどのようなものを具体的に考えているか。また、満足度について具体的な指標を設定しているが、それはアンケートで把握するのか。

応募団体 自主事業については、教室事業について、当初から取り組みやすそうなものを事業計画書に挙げており、次第に増やしていく。まずは初年度で見極めを行い、現在の利用状況を邪魔しないように開催していく。また、満足度については、アンケート調査で把握する。

永塚委員 (共同企業体による指定管理実績について質問)

応募団体 (具体的な事例を挙げて回答)

小出委員 構成企業が共同企業体に参加するメリットは何か。

応募団体 地域性の高い構成企業とともに事業を行うことに意味があると考えている。

小出委員 指定管理料を低めに提示しているが、赤字になった場合はどのように考えているか。

応募団体 企業努力が至らないところについては、自分たちで飲み込む。ただし、光熱費の高騰等について赤字となった場合は市と協議させてほしい。

小出委員 プールの人員体制については基準は無いと思うが、具体的な人員体制や運用はどうするか。

応募団体 監視員については、25mプールでは3名、利用者の少ない時間帯においては2名配置し、50mプールでは4名配置する。また、研修プログラムに則って研修を行う。

小出委員 共同企業体で管理を行うとのことで、責任の所在は不明確になったりしないか。

応募団体 最終的な責任は代表企業がとる。

加藤委員長 職員体制について、施設数が多く立地が分散していることから、雇用が

難しいのではないかと、どのように対応するのか。

応募団体 現スタッフの方の継続雇用に加え、地域の方を優先して雇用し、人員補充を行う。それでも不足する場合は、職員のマルチタスクな能力を発揮できるようにして補っていく。

【(団体B) に対する主な質疑応答】

中山委員 代表企業の財政基盤について、キャッシュフローの減少や赤字拡大がみえるが、資金繰り、経営改善の計画や見通しはどうか。また代表企業の企業グループにおける位置づけはどうか。

応募団体 資金繰りについては、親会社から資金調達を行っており、短期借入金は全て親会社からのものである。また、コロナの影響による収入減、物価高騰等により累積赤字となっていたが、経営計画においては、新規案件の取得や利用者回復により、2025年に黒字化する想定である。

位置づけについては、企業としてサービス事業は重要であると考えたうえで、指定管理事業を専門化するために分社化したものであり、不採算だから切り離されているというわけではない。

中山委員 構成企業は代表企業の経営状況をどう評価しているか。

応募団体 構成企業としては、2025年に黒字化する計画である点、親会社の後ろ盾がある点、昨今スポーツ熱が上昇している点から、伸びしろもある信頼できる企業であると考えている。

藤原委員 利用者増に向けた情報発信の強化について具体的には何があるか。

応募団体 インスタグラム等のSNSを活用して施設内や自主事業の動画等により情報発信を行う。

藤原委員 SNS等利用しない層に対しては、何かあるか。

応募団体 現利用者への声かけによる、利用者と同一コミュニティの方への広報、駅や施設周辺、NPO含めた連携先での広報やポスティング、空いている会議室での説明会の開催や地域の広報誌の活用等を考えている。

小島副委員長 全施設の一元管理システムについて、この内容が収支計画書にどのように反映されているのか、またすでにカメラが設置されている施設もあるため、本提案は新規というより増強にあたるか。

応募団体 初期投資については合計で45万円、ランニングコストについては年間50万円程度を想定しており、それはその他費用に計上している。

また、新規でカメラを20台購入する点、一括で事務所内を見えるようにする点があることから新規としている。

小島副委員長 自主事業において多くの提案があり、非常に魅力的な内容であるが、

この中で、既に実績があり、横展開しているようなものはあるか。

応募団体 提案しているものは全て実績があったものであり、横展開可能なものである。

藤原委員 コンソーシアムを組むとのことだが、これは初めての組み合わせか。

応募団体 事業提案を行ったことはあるが、実際に事業を行ったことは無い。

藤原委員 具体的にどのように企業間の連携を図るのか。

応募団体 月1回は本部の責任者含め全体会議を行い、2週間に1度、現場の共同体で会議を行い課題整理等行う。

吉川委員 監視カメラによる施設の一元管理について、現在の人員配置についてはどうなるのか。

応募団体 人員配置自体は現行の通り配置する予定。一元管理により、無人施設の無断利用等も把握できるので、現場に行き、ルールの周知等行えるようになる。

藤原委員 自主事業の実施に際し、親会社の意向を伺う必要があるのか。

応募団体 利用できる自主事業のコンテンツは親会社と同じものであり、日程調整等さえすれば問題なく実施できる。

小出委員 親会社が機構改革、再整理を行った場合に、指定管理事業について切り売りされてしまうことは絶対に無いと言い切れるものなのか。

応募団体 無いと言い切れる。

小出委員 監視カメラによる一元管理について、具体的にイメージできるように話をしてほしい。

応募団体 ネット管理は難しい。ただ、携帯の電波が通っていればデータを送信できるものがあるので、それを活用する。配置については、施設の入り口や駐車場をおさえて配置することとし、20台配置を想定しているが、必要に応じて追加も検討する。また、表示については、中央体育館に中継映像を映し続けるようなイメージである。

小出委員 平日の昼間等、施設が開いている時間帯について、利用者を誘引するアイデアはあるか。

応募団体 チラシ配りや、ショッピングセンター等で主婦層や高齢者の方に対し、クーポンを配布したり、公民館等においては市を通して、スポーツ活動をしていない利用者に対してアプローチしたい。

小出委員 施設も古く、グラウンドの状況も良くない現状である。各競技に合わせたメンテナンスについて、どのような経験、ノウハウがあるか。

応募団体 他市での実績があり，植栽管理や芝生整備について一定の知識がある。

中山委員 グラウンド利用についてどう考えるか。

応募団体 様々な国際大会等に関する機運醸成の広報等行う場として活用したい。

※ 上述の括弧書きの部分は，柏市情報公開条例第7条第3号ア（公にすることにより，当該法人等又は当該個人の権利，競争上の地位その他正当な利益を害するおそれがあるもの）に該当するものとの判断により，具体の記載は行わない。

※ 得点の高い団体から記載しているため，実際の面接の順番と異なる。

(3) 候補者の選定

【決定事項】

- ・ 株式会社協栄千葉支店を柏市スポーツ施設の指定管理者候補者とする。
- ・ 団体Aを，第二優先交渉権者とする。